

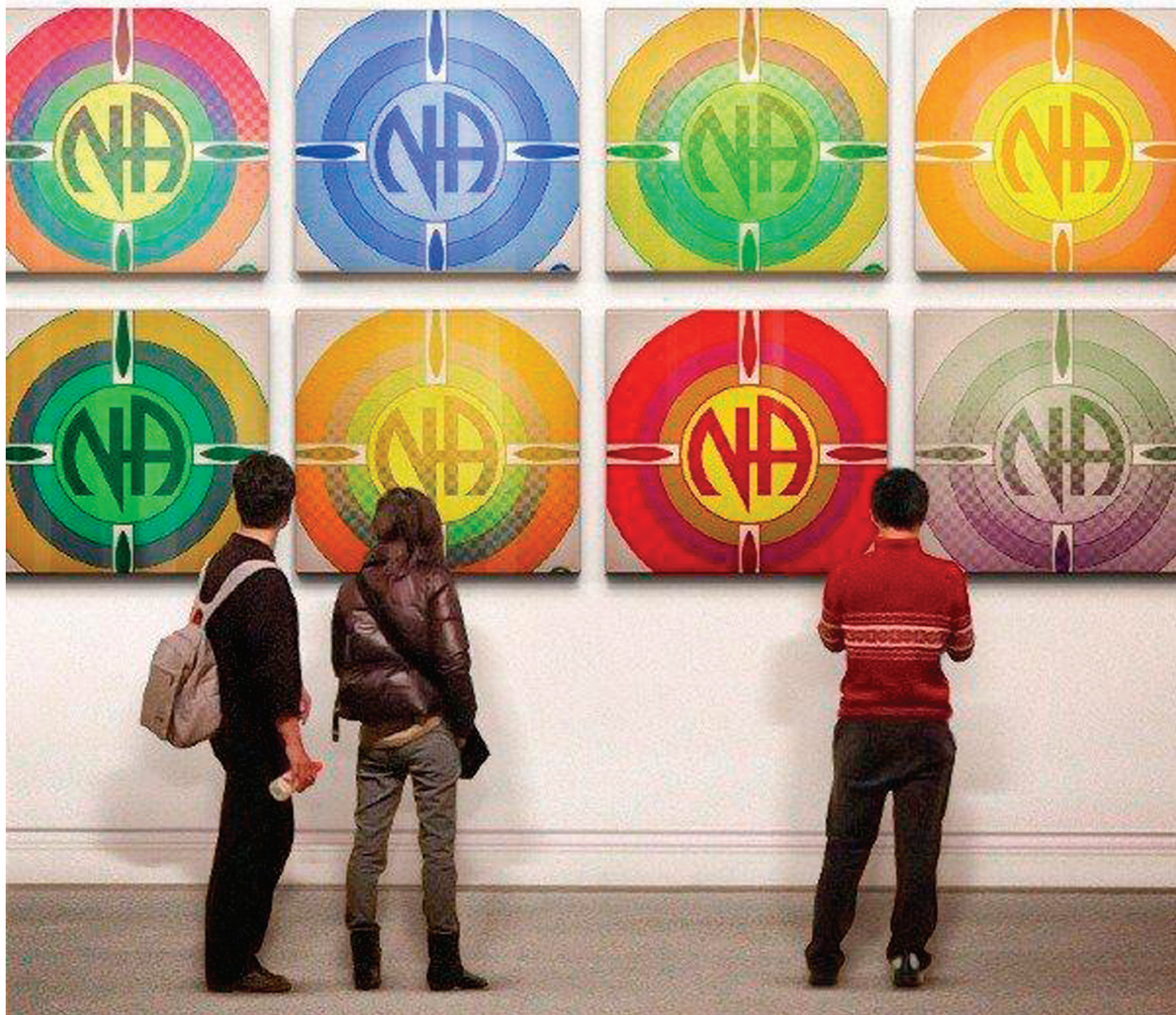
THE
NAWay
MAGAZINE

2012年7月発行
第29号 / 3号

世界中で読まれているNAの定期刊行物
THE INTERNATIONAL JOURNAL OF NARCOTICS ANONYMOUS



出版30周年を祝う ◆ 1982年～2012年



回復の夢や希望

2012年-2014年のプロジェクト

『私たちの未来像』に投資しよう

リビングクリーン：ザ・ジャーニー・コンティニューズ



編集者から、ひとこと

世界中で読まれている NAの定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ベルジャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのももちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしている。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービスのトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

今年も9月1日になると、世界中のNAメンバーたちが『平安の祈り』を共に唱えてNAのワールドユニティデーを祝う。毎年のことながら、これにはジーンとくるような一体感がある。そして、NAという仲間の集まりが世界に広く根づいていることに考えをめぐらせるのも楽しいものだ。ざっと数えただけでも、世界にはおよそ196の国がある。Afghanistan (アフガニスタン) からZimbabwe (ジンバブエ) までの196か国のうち、NAのメッセージが運ばれているのは129か国で、話されている言語は77。こうして毎週、62,000近くのミーティングが開かれているというわけだ。

なんともたいした広がり方ではないか。だからなおさら、編集者としてはたずねたくなる。「2011年のNA Way マガジンへ投稿があったのは22か国だけって、どういうこと?」。もちろん、それはそれでうれしいことではあるけれど、でも、投稿できるメンバーはまだまだいるはずだ。経験談、写真、アート作品にかぎらず、回復を伝える手段はいろいろある。そして自分の得たものを返していくためにも、NA Way マガジンはうってつけなのだから、この誌面で自分が手にした宝物を仲間たちとわかちあうことを、どうか考えていただきたい。Eメール naway@na.org でもいいし、ウェブサイト www.naway.org でもいい。みなさんの投稿をお待ちしている。

ということで、とりあえずはNAの『伝統』と『概念 (コンセプト) 』にしっかり目を向け、2000年代のNA Way マガジンを祝福することにしよう。では、今月号をお楽しみいただきたい。

『12のステップ』、『12の伝統』、『12の概念』をはじめ、NAの文献にはNAの原理が収められている。これはどれも、みんなで実行することによってだれもが心を通じて語り合えるものとなり、私たちに仲間意識をもたらすのだ。

『リビング・クリーン「ザ・ジャーニー・コンティニューズ」、第2章「心のきずな」

ド・J (エディター)

Electronic subscribers can click here
for exclusive historical NA Way Magazine content.

IN THIS ISSUE

特集記事

- コーヒーを入れるのも立派なサービス3

ワールドユニティデー

4

わかちあい

- たのむから、刑務所に入れてくれ 5
- Tradition Eleven 6
- Applying the Twelve Concepts 7
- 感謝の気持ち 8
- 回復の夢や希望 8

Living Clean:

The Journey Continues

9

「私たちの未来像」に投資しよう

10

2012年ワールドサービスカンファレンス 投票結果

12

2012年~2014年 2年間にわたるプロジェクト

13

それぞれの『伝統5』

14

Picture this

16

Web and IT updates

17

Calendar

18

Coming soon

19

WCNA merchandise

19

Cover photo: Miko N, Israel

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとめていただければ、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

◆ ◆ ◆ ◆ 特集

コーヒーを入れるのも 立派なサービス

私たちのエリアサービス委員会では、前回、出席者のひとりから問いかけがあった。

エリアにあるグループは、いったい何のためにエリアサービス委員会を必要としているのか。そもそも、なんでサービス機構のようなものがなくではいけないのか。

だいたいからして、おれたちのグループはエリアのミーティングを開いてるわけじゃない。「サービスにかかわる連中」はエリアサービス委員会に出席して、「おれたち」の献金の使い道についてああでもないこうでもない騒いでいるが、おれたちはグループでちゃんとやってるんだ。委員会で書記をやるのが、会計をしようが、そんなことだれも気にしちゃいけないんだから、ホームでおとなしくしてればいいじゃないか。

なるほど、そうきたか。ミーティング場にいるアディクトの多くがこのように自問して、答えを思いつかないでいるのだと思う。そこで、献金をしがる。それによってグループの献金が少なくなることについては、こう考える。「グループのコーヒー代がまかなえれば、十分でしょ？」

エリアサービス委員会だの、リージョナルサービス委員会だのといっても、どうなっているのやらよくわからない。「ミーティングに出ているだけのメンバー」には、しよせんは他人事としか思えないのだ。

わたしのホームグループではどうだろう。コーヒーを入れ、テーブルを並べるのは、だれかがやってくれる。そして、ミーティングが終わってセクレタリーが片づけの協力を求めると、シラっとしてだれも答えない。こどもややり、人まかせ。これだけ人がいるんだから、洗い物なんか、自分がやるまでもないだろう？

わたしは、サービスの役割が愛されない子供のようにたらい回しにされると感じてならない。エリアサービス委員会にかぎらず、グループのなかでもそうだ。だから、鍵当番でも会場係でも、だれかが貧乏くじを引いてもう一年引き受けてくれることになると、みんなホッとする。

エリアサービス委員会、リージョナルサービス委員会、さらにはNAワールドサービスのことも、「上層部」とみられている。上の連中が有能なら、下っ端の出る幕はない。だが、無能だったりすると、わけのわからないことに予算をつぎ込むため、ひっきりなしに金を無心されることになる。中国のアディクトたちが『ベーシックテキスト』を手にしようと、知るか、そんなこと。

このようなことになっているとは、なんとも残念だ。わたしは、NAにつながつてしばらくして重要な役割を「任された」。これは「押しつけられた」のではない。わたしは「使わなくなっても変わりばえのしない週末を犠牲にする」代わりに、エリアサービス委員会に出席する「チャンスをつかんだ」のだ。そして、洗い物をしていると、ほんのわずかだけ自分がグループの一員になれたという気がしたし、ビジネスミーティングで自分の一票が生かされているとわかるのも素晴らしい経験だった。

エリアサービス委員会に出席するようになってからは、みんなが感謝の気持ちを口にし、サービスにかかわることでNAにお返しができると話しているのをよく耳にした。「成長を遂げている仲間から離れるな」、そういう仲間こそ、ステップに取り組んでNAの役に立とうとしているアディクトなのだを教えてもらった。だから、わたしも、そういう仲間たちのひとりになりたいと思ったのだ。

このようなことは何もかも、身をもって示してくれた仲間たちから学んだ。みんな、一途な思いを伝えてくれただけでなく、謙虚さと感謝の気持ちでサービス活動にいそしみ、求められることにはさりげなく応えていた。それがカップを洗うことでも、「自分でよければ」と言ってやらせてもらう。毎週、



毎週、この繰り返しだとしても、たんたんと洗い物をしていく。

そこでさっそく、わたしはいろんなサービスに手を出した。回復の道を歩み出したばかりのくせに、あれもこれも、自分が、自分がと、役割を引き受けまくったのだ。そんなことをしているうちに、いつの間にかわたしは感謝の気持ちを失っていた。不満たらたらで文句ばかり言い、自分が馬鹿をみているような気がしてきた。完璧でないと気が済まず、そういう尺度で仲間を非難して裁いていた。

そんなとき、ミーティングが終わって「洗い物は、だれがやる？」と声がかかっても、わたしはブスツとして黙っていた。そのあげく、自分に言いかけた。「わたしは少なくとも5年間は洗い物をしてきたのよ。もう、たくさんだわ。そろそろ、だれか交代してよ。だいたい、わたしは、エリアやリージョンのサービス委員会でもありとあらゆるサービスをこなしたんじゃない？ それだって、べつに感謝されてるってわけでもないんだから」もう、謙虚さも感謝もあつたものではない。

さすがに、前回のエリアサービス委員会ではすっかり考えさせられた。NAのサービス機構が何の役に立つのかという問いかけを耳にすることも、献金が次第に減っていくことでサービス機構への支援が十分ではないという経験をするのも、これが初めてではなかった。世界中のサービス機構にいる「メンバーたち」がしていることについても、そのめざましい活躍ぶりをひとつひとつ、ミーティングに出ているメンバーたちに伝えることはできるだろうが、それもあくまで言葉だけのことにすぎないというのが現実だ。

わたしはNAにつながって8年になる。その間には、どんなサービスも「おろそかに」したことはまったくない。でも、「だれか手伝ってくれない？」と声がかかったときに、わたしのようにブスツとして黙っているメンバーを新しいメンバーが目にしたら、どうだろう？ 手を貸す価値があると思えるだろうか？

それで、わたしはいったいどうしたら謙虚さや感謝という原理を実行することができるのか。自分がこれまで見習った仲間たちのように身をもって示していくこと、つまり、たんたんと洗い物をさせてもらうことによって実行するのだ。

わたしは今でも、というより、あらためて熱心にNAのサービスにかかわっている。そうしていると、回復するのにもはりあがあるのだ。NAのような世界に広がる仲間の集まりに加わることができただけでさえすごいことなのに、こうやってサービスにかかわって自分の役目を果たしていればNAの役に立つことができるのだから、とてもシラケてなどいられない。

というわけで、冒頭の問いかけに戻ろう。たしかに、書記だの、会計だの、あるいは委員会への出席だのと、大騒ぎするほどのことではない。でも、みんながほんの少しづつ貢献してひとつの結果が生まれるのだと、わたしは信じている。だが、いつ、どこで貢献するかはどうでもいいことなのだ。

実のところ、ミーティング場でコーヒーを入れることは、サービスの場でもっといぶつて座っているよりもずっと重要なことだと、わたしは思っている。はるか昔にアメリカの小さな町で、何年も何年も黙々

とコーヒーを入れて洗い物をしていくアディクトがいなかったら、そして、そんな姿を見てほかのアディクトがサービスにかかわる気になり、それがまたほかのアディクトをその気にさせ、次から次へと広がっていくことがなかったら、こうしてドイツでもミーティングが開かれるようになることなど、絶対にありえなかったのだ。

わたしたちのジャーマン・スピーキング・リージョンでは現在、220を超えるミーティングが開かれている。そして今、こうしている間にも、世界のはるかかなたの地域や国にNAが誕生して、NAの文献がさまざまな言語に翻訳されていき、ワークショップやコンベンションが開催され、NAのメッセージが施設や刑務所にもたらされている。そうやって、情熱と回復がわかちあわれているのだ。ミーティング場でコーヒーを入れている仲間のみなさん、どうもありがとう。

シグリッド・B (ドイツ/カールストヒュッヘ)
NA Way マガジン 2004年1月号掲載

編集者注： 2012年WSC (ワールドサービスカンファレンス) のリージョナルレポートによ

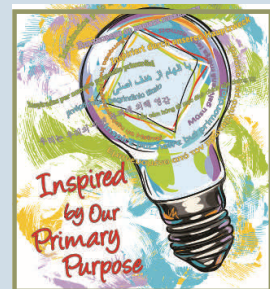
れば、この「ジャーマン スピーキング リージョン」は現在、6つのエリアで構成されて毎週およそ260のミーティングが開かれ、リージョナル サービス オフィスと、ホームページ www.narcotics-anonymous.de を設けるまでになっている。

NA ワールドユニティデイ 2012年9月1日

思いやる習慣があれば、心はひとつになる

『リビングクリーン：ザ・ジャーニー・コンティニューズ』
『使わないで生きる「終わりのない旅」』
第7章「ザ・ジャーニー・コンティニューズ」

NAの第1の目的によって、私たちはひとつにまとまり、世界に広がるNAという仲間の集まりのことや今苦しんでいるアディクトのことをしっかり考えようという気持ちになる。このユニティデイという心をひとつにする日には、イベントを開くか、仲間たちと一緒に集まるか、あるいは自分なりにちょっと時間をさくかして、世界中のNAメンバーたちが「平安の祈り」をみんなで唱える。今年は、電話での呼びかけもないし、大々的なイベントもない。ただ、しばしの間、祈りを捧げるだけだ。午前3時の集合なんて無理だという場合には、9月1日のある時点で（できれば、ミーティングのときに）黙とうして祈りながらNAの熱い思いを共有し、NAが心をひとつにすることで生まれる愛を感じよう。こうして、私たちの第一の目的が私たちの未来を照らすのだ。



さらに詳しい情報については、ウェブサイトまたは電話で確認していただきたい
www.na.org/?ID=nawsevents-event-reg
818-773-9999

わかちあい

たのむから、 刑務所に入れてくれ

私が絶望の淵から人生という荒海に乗りだし、こうやって生きられるようになったのは、ひとえに神のおかげだ。まずは、その神に心から感謝して自分の話をさせてもらおう。

クスリにはまっていたときの私は、一発決められれば人生などどうでもよかったし、本命のクスリのためなら人間の尊厳もへたくれもなかった。アディクションが進行するにつれて私はどんどんおかしくなっていき、不安や恐怖にとりつかれ、善悪の区別もつかなくなるほど完全に自分を見失ってしまったのだ。

父親は、そんな私がなんともふがいなく、どうしたものかと心を痛めていた。その父親も私が使いまくっている間に死んでしまった。それからまもなくして私の結婚生活は破たんし、妻と子供たちが出ていった。いつまでたってもクスリ漬けの状態から抜け出そうとしない私に愛想をつかしたのだ。母親も、それまでは何があろうと私を見はなすことなどないようみえたが、さすがに堪忍袋の緒が切れた。兄弟や姉妹たちも、親しい友人たちも、私のことをタチの悪い疫病神であるかのように疎んじた。

だが、そんなことになっても、使いまくっていたころの自分には「よき時代」だったし、まだ本当に困ったことにはなっていなかったのだ。その時点ですでに、私は14年以上も使っていた。それからさらに7年間、私はテヘラン通りにいて、だれにも相手にされずまったくのひとりぼっちで孤独に過ごした。街角や橋の下をうろつき、刑務所や施設に入れられたりしているうちに、人生がいたずらに過ぎていった。そして、私は刑務所の独房にいまする方がむしろ気楽だったため、そのうち逮捕すらしてもらえなくなってしまった。それでも、クスリによって壊れてしまった私は、ただひたすら刑務所に入れてもらうことばかり考えていた。

こんな状況のもとで21年間もクスリを使いまくったあげく、私は怒りや恨みでごりかたまり、落ちるとこまで落ちて社会のクズと化した。それでもまだ人間だと言えるのだろうか？ 生きる道があるのか？ どう考えたって何もかもお終いだし、もう先がなかった。自殺すればいいんだと思ったが、死でさえも私に近寄ろうとはしなかった。もう精根つき果てて、どうすることもできなかった。ただ、ただ、楽になりたかった。こんなになってまで、生きていることに意味があるのか？ 私はさすがの思いで、叫んだ。「神よ！」。すると突然、まさに神の使いによって解放を告げる知らせが届いた。それはまさにお告げとしかいえないものだったので、私はテヘランの東側で開かれていたNAのミーティングに向かって出発した。テヘランの中心にあるシシュ・スクエアからマジディアのミーティング会場まで、約15キロの道のりをずっと歩いて行ったのだ。私のそばには、強い力の存在が感じられた。

ミーティング場にたどりつくと、かつての遊び仲間たちに会った。そのなかには一緒に使っていた年上の男がいて、それがなんと、18か月もクリーンでいたのだ。いやはや、すっかり見ちがえて、まったく別人のようだった。まさにその瞬間、スピリチュアルな体験らしきものをした。50年も使いまくっていたやつが70才でクリーンになれたんだから、私だってできる、と自分に言いかけた。

だが、クリーンになるといっても、私の身体はあちこちにガタがきていたので解毒治療が必要だった。テヘラン郊外にある解毒施設に入所することになったのだが、当日に乗っていくはずのバスは、ほかのアディクトたちで満員になり、今にも出発するところだった。私は金がなくて治療費をまかなえなかったため、きちんと支払うまでは乗せるわけにはいかない



と言われてしまった。目の前が真っ暗になった。しかも私にはひどい離脱症状があらわれていた。よれよれで、もう一歩も進めなかった。それが、急に力がみなぎってくるのではないか。気がつく、私は頭をタイヤの下にしてバスの前に横たわっていた。そのまま、「私を乗せずに出発するつもりなら、まずこの頭蓋骨を踏み越えてから行くんだな」と叫んで、意識を失った。

そのあとのことは、自分ではまったく覚えていないので人づてに聞いた。どうやら、私は運転手とほかのアディクトたちによってバスの下から引き出されたらしい。みんな、もらい泣きしていたそうだ。そして、私はなんとか解毒施設に入所させてもらうことができ、必要な治療が受けられた。もうひとりぼっちではなかったし、孤独に死なずにすんだのだ。回復の道を歩む仲間たちのおかげで、私の抱える問題にも解決があるとわかった。こうして、ひとりのアディクトがもうひとりのアディクトを手助けすることには、これほどの治療効果があるのかと気づかされた。NAは私がいた解毒治療センターでミーティングを開き、いろんなグループのミーティング・リストも配ってくれたので、私たちはセンターを退所したあともNAのミーティングに出席することができた。

NAのミーティングで語られる生き方や変化に、どうしてこれほど興味ががもてるようになったのか、私にはわからない。私は裸同然で、家族も友人も失ってしまったが、ふしぎな力によって前に進むことができた。このような力をもってすれば、できないことなどありはしなかった。そういう心境になったころから、私は回復の道をたどっているとわかった。そしてだんだんと否定的な考え方をしなくなると、使いまくっていたころにしでかしたことは考えたくもなかった。ああやっつろくでもないことをするのが、自分の生き方になってしまっていたからだ。

それでも12のステップに取り組むことで、絶望的で恐怖に満ちた負け犬のような人生をどうすればいいのかわかるようになった。神の助けとNAのスピリチュアルな原理により、どのようなかたちであっても、私はクスリを使ってはいけないのだという事実を受け入れることができた。私は、気分を変える物質に対して、回復不能で一生治らないアレルギーを持っているのだ。それゆえ、回復するためにはクスリというクスリを全部断たなくてはならない。こうして自分の無力さを認めて受け入れたら、アディクションに対して挑戦的な態度をとることがなくなった。無条件に降伏したとたんに、言葉では言い表せない心のやすらぎが訪れた。私は、翼がなくても羽ばたいていける。つまり、クスリがなくても生きていけることがわかったのだ。

それでもなお、迷いが生じて回復の道からそれたりするもので、そうなるかつつの苦しみがよくみえることになる。性格の欠点かふたたび行動に表れるようになり、不満だらけの人間になってしまうからだ。そうなったときに私に残されている道はひとつしかない。NAのプログラムに従って生き、愛なる神に助けを求めることだ。もちろん、これはすべて私のやる気次第なのだとかわかってい

る。こうして、私のようなアディクトだって自由の喜びを知ることができたのだから、まだ苦しみのなかにいる仲間たちがひとり残らずNAに導かれることを願ってやまない。だれも、アディクションによって命を落とすことがないように、と祈っている。

シャーボウア・A (イラン/テヘラン)

2006年春発行『バヤム・ベアブーディ』より抜粋

編集者記：

この記事を英語に翻訳してくれたのは、イランの仲間、シアバツシ・Jである。シャーボウアの近況を知るために所在を確かめてくれたこととあわせて、心からお礼を言いたい。シャーボウアはグリーンになって13年と7か月になる(2012年6月現在)。家族(妻と4人のこどもたち)も戻ってきて、うまくいっている。イランのNAで熱心に活動し、スポンサーを何人ももち、ミーティングに通ってステップに取り組んでいる。数年前に骨肉腫にかかって化学療法を受け、いまだにさまざまな後遺症を抱えている。現在は、作家となっており、アディクションに関する本を何冊か書き、イランとアメリカ合衆国で出版された。それもこれも、NAの12のステップがあったからで、そうでなかったら今ごろは死んでいただろうとシャーボウアは言っている。

Tradition Eleven

“Our public relations policy is based on attraction rather than promotion; we need always maintain personal anonymity at the level of press, radio, and films.”

I would like to break down what this tradition means to me and give you some examples from my own personal experiences. First of all, I must always realize that I am not NA. I do not represent Narcotics Anonymous as a whole. I believe this tradition reminds us that this is a “we” fellowship, and that we must protect what we have and not damage it by “running our mouths” to press, radio, and films. We have public information and public relations (PI/PR) committees that do very well in dealing with the public and providing information about NA to help us further carry our message of hope and solutions to the addict who still suffers.

What if I publicly revealed my NA membership and talked about how great NA is in a local newspaper, and then relapsed, committed a crime, and had my name, my crime, and my NA affiliation reported in the very same newspaper? What could this do to NA’s image?

What if I was wearing my NA T-shirt at a local store and got into an unruly argument with another customer or with the checkout clerk? What might other customers think of NA?

What if our group was loud and boisterous at our meeting place? Or if we left the meeting room or a picnic area a mess? What would this do to NA’s image?

We cannot afford to act independently, and when we might be seen as reflecting NA, we need to act responsibly. We do not become “media stars” on behalf of NA. NA is not a program of promotion; it is a program of attraction. We have members experienced with Tradition Eleven who can practice the principles of this tradition at the level of press, radio, and films on our behalf.

Rosanne S, Utah, USA

.....
**Electronic subscribers
can click here for
additional content.**
.....

Applying the Twelve Concepts

I am a 62-year-old businessman. I work as a senior business consultant and federal domestic assistance writer. I deal with paperwork involving hundreds of millions of dollars annually. Many people trust me—and my judgment. In the grant application and proposal processes, there are many federal, state, and local statutes, rules, and regulations to follow. If I fail to comply, my employment would be terminated and I would be liable for my mistakes. I am a responsible, productive member of society.

In April 2012, I celebrated my nineteenth anniversary in Narcotics Anonymous. I have made regional and area service commitments almost the entire time I've been clean and in NA. I've also served—and currently serve—as my home group's greeter, welcoming newcomers and oldtimers with a simple hug.

In our booklet [Twelve Concepts for NA Service](#), the essay on the Tenth Concept begins like this: *The Tenth Concept is our fellowship's guarantee of respect for the individual trusted servant. This concept may seem self-evident, but our belief in the principle involved is so strong that we want to say it loudly and clearly. Narcotics Anonymous is a spiritual society, with high ideals for how we treat each other.*

Honestly, I must ask, "What part of the spirit of this quote from the Tenth Concept do trusted servants at the ASC not understand?" When I hear a trusted servant render a report to the GSRs at the ASC, I want to applaud and tell the volunteer trusted servant how much I appreciate his or her service to the fellowship we both love. I want to make a motion that we change the ASC policy to ask the ASC chairperson to thank our trusted servants for their free-of-charge service to the NA Fellowship. Instead, trusted servants are often reprimanded or chastised, usually by other ASC trusted servants who seem to be basking in the spotlight of an audience.

I had such an experience myself when I offered my service to help establish guidelines for our newly forming area. I was taken aback when I was interrogated as if I was some sort of criminal. Personally, I am not a public speaker. When someone comes at me with an attitude, I get nervous. I appear unsure of myself. If I had a PowerPoint presentation, I could hold a really deep business discussion about complicated business matters, but I was not prepared to be cross-examined for putting together and presenting information and ideas for my ASC.

Calling an ASC or RSC trusted servant on the carpet in this way violates the very concept of electing people we trust to do the job at hand (as we are guided by other Concepts for Service like the Third and Fourth). We elect them because we

trust them. "Trust" is defined by some this way, "If you trust someone, then you believe that they're honest and reliable, unless you have reason to believe otherwise." If I had an issue with a trusted servant's report, I would attend the subcommittee meeting or go to the ASC JAC (Joint Administrative Committee) to address my concern. But I would not disrespect that person on the floor of the ASC, which I also believe paints a negative and unattractive picture for those new to service.

NA trusted servants deserve better treatment. The Tenth Concept assures this. I know we are just human, but that doesn't excuse harming others or their reputation. That is unacceptable in a spiritual program based on goodwill.

Andrew W, New Jersey, USA

TWELVE CONCEPTS FOR NA SERVICE

- To fulfill our fellowship's primary purpose, the NA groups have joined together to create a structure which develops, coordinates, and maintains services on behalf of NA as a whole.
- The final responsibility and authority for NA services rests with the NA groups.
- The NA groups delegate to the service structure the authority necessary to fulfill the responsibilities assigned to it.
- Effective leadership is highly valued in NA. Leadership qualities should be selected.
- For each position of responsibility assigned, the single point of decision and authority should be defined.
- Group consensus is the spirit of a loving God's influence upon the NA Fellowship.
- All members of a service body should participate in decisions and decisions should be made by consensus.
- Our service structure depends on the effectiveness of our communication.
- All elements of our service structure should be carefully considered from all viewpoints.
- Any member of a service body can initiate the redress of a personal grievance.
- NA funds are to be used to further the NA Fellowship and must be managed responsibly.
- In keeping with the spiritual nature of our structure, our service should be one of mutual respect.

Copyright © 1989, 1990, 1991 by Narcotics Anonymous World Services, Inc. All rights reserved. The Twelve Concepts for NA Service were first published in 1989. Revised 2002.

January 2012

Word cloud languages: Eesti, Moldoveneasca, Ελληνικά, মনপুরা, தமிழ், Bahasa Melayu, Türkçe, Latvīšu, Afrikaans, Русский, Filipino, 中文, Bosanski, नेपाली, 日本語, Magyar, العربية, Portugueses, हिन्दी, Anglizized, Deutsch, Svenska, Polski, Bahasa Indonesia, Українській, Dansk, Swahili, मराठी, اردو, Slovenčina, hrvatski, Български, Malti, ਪੰਜਾਬੀ, isvenska, Italiano, বাংলা, ગાથા, English, Lietuviškai, فارسی, Français, मराठी.

感謝の気持ち

あたしは病院のベッドに座って看護師とおしゃべりしているときに、NAのことを教えてもらった。そのとき、あたしは妊娠6か月をすぎたばかりだった。さすがに、これまでのような生き方をしているわけにはいかなかった。赤ちゃんを傷つけたくなかったし、もう、苦しい思いをして生きるのはいやだった。だから、使わないで13日が過ぎた1992年8月19日の水曜日に、ニューヨークのブロンクスで開かれていたNAのミーティングに初めて参加した。そこには慈悲深いハイパーパワーがいた。スポンサーも見つかり、この水曜夜のミーティングがあたしのホームグループになった。

あたしは、NAで新しい生き方を教えてもらい、これからの人生について見通しが開けた。NAの『12のステップ』と『12の伝統』のおかげで、あたしは刑務所や施設に入れられることも死におびえることもなく、自分の生活や仕事を続けながらNAの役に立つことをしていける。NAにいれば、人生の浮き沈みに直面してもどうすればいいのか教えてもらえるし、クスリを使わないでどうやって生きる喜びを実感すればいいのかもわかる。そして、『12の概念』とサービス活動の大切さも理解できるようになってもらった。あのとき、NAのミーティングにはじめて足を踏み入れ、心やさしい仲間たちに出会ってNAで歩む回復の道を示してもらえなかったら、今のような人生を生きることができなかっただろう。

そして、何よりありがたかったのは、NAにいればクスリへのとらわれから解放されるという希望がもてたことだ。NAの原理にそって生きていくことで希望は現実となり、あたしは2011年の8月19日に19年のクリーンタイムを祝うことができた。

シャント・A (アメリカ合衆国/コネティカット)

Chante A, Connecticut, USA

回復の 夢や希望

回復の道を歩みはじめて間もないころに、僕は地元の市民劇団に入った。とっくにあきらめていた夢を追いかけることができたのも、NAのプログラムによる恩恵のひとつだった。

この小さな劇団では、劇団員のワークショップが開かれていた。僕はそこで、初めてにして僕の唯一の芝居となる脚本を書き、劇団の仲間たちに披露した。それはアディクションと回復を描いた芝居だったが、「内容がどぎつくて生々しすぎるし、ウチの劇団でやるような芝居でもない」と言われてしまい、僕はすっかり気落ちした。

けれども、回復の道のりだと思われぬ幸運に恵まれることはめずらしくない。その例にもれず、この短い芝居の脚本は、数か月してNAのH&I (病院施設) コンベンションの実行委員の手に渡ることになった。そして僕は実行委員会に呼ばれて、「今度のコンベンションで、この芝居をやろうよ」と言われた。天にも昇るような気分だったが、監督も演出もやったことがないので、このあとどうすればいいのかわからなかった。リハーサルはどこでやる？ 俳優はどうする？

そして、目的がはっきりしていれば、さまざまなところから幸運が舞い込む。いくつかの教会がリハーサルのためにスペースを提供してくれたのだ。俳優は、いくつかの病院の回復病棟から20人ほど集まった。こうして、芝居は動きだした。

コンベンションの前日には、ようやくかたちになった芝居をたずさえて長期入居のリハビリセンターを訪れ、連続上演を行った。センターの入所者たちは、芝居を見終わって涙ぐんでいた。絶望したのではない。感謝で胸がいっぱいだったのだ。翌日のコンベンションでも、観客はやはり感謝のあまり涙ぐんでいた。

それから夢のような20年が過ぎた。この芝居は、アディクトが底をついて12のステップによるわかちあいの場に足を踏み入れ、スピリチュアルな目覚めをするさまを描いたものであり、これまでにシェルターや治療センター、刑務所などで上演されただけでなく、さまざまな地域で一般公開もされたので、3万人以上の人々の目に触れることになった。

芝居を上演しているのは、回復の道を歩むアディクトたちによる劇団だ。この劇団のメンバーたちは、けっしてフルネーム (姓名) を明かさず、報酬を受け取ることもない。劇団としても、マスコミの取材はお断りしている。それでも、多くの仲間が芝居を見て希望と回復のメッセージを運ばせてほしいと参加するようになり、今や400人以上の名もないボランティアが所属する大劇団になった。そして、これまで資金提供を受けないまま、8つの州で芝居を上演してきた。

こうして回復には多くの恵みがもたらされるが、そのなかでも自分と同じ病に苦しむ仲間たちに希望をもたらすメッセージを運ぶ機会が与えられることほど、僕にとってありがたいものはないだろう。

ボブ・L (アメリカ合衆国/ニュージャージー)





Living Clean: The Journey Continues

Unanimously approved by WSC 2012

NA's newest Fellowship-approved book has been in development since WSC 2008. *Living Clean: The Journey Continues* involved hard work and input from countless members all around the world. The Living Clean Workgroup made great strides using technology to involve members in development of the book from the very beginning. *Living Clean* illustrates experiences many of us have in recovery and offers spiritual principles, humor, and a sense of bonding through identification. We anticipate a fall/winter 2012 release date of a gift edition along with the book itself.

There's a saying in recovery that as we keep going, the road narrows. That's partly true. Our willingness to make the same old mistakes diminishes, and we know better than to act on our impulses much of the time. But that's not the end of the story. It's as if we pass through a funnel: The way gets tighter and more uncomfortable as we begin to adapt to our new way of life—and then, without warning, it opens up and we are free. The road is no longer narrow; sometimes it seems like there's no road at all. We move to our own rhythm, finding a pace and a direction that is right for us. The trip is inward and it never stops. We keep learning and growing, finding ways to live and to use our experience to help others. No matter how long we have been clean, there is still more for us to learn and more for us to share. Our First Step placed us on a path to awareness, connection, and serenity. We received much more than simple abstinence. We have been given an endless supply of principles to guide us as we travel through our lives.

In Step Three, we make a decision to turn our will over to a power greater than ourselves, and in Step Eleven it is returned to us, transformed. The desperation we once felt at our predicament was the opening to a passion for caring, sharing, giving, and growing. Where once we lacked the power even to keep ourselves alive, now we take action in our own lives and in service to others, and we are amazed at the results. We live with dignity, integrity, and grace—and we know we can always get better.

The more progress we recognize in ourselves and our fellows, the more we know is possible. What first appeared to us as a way out now offers us a way in—into a life we hadn't imagined, into joy, into hope, into growth that never stops. We continue to get better. We continue to discover new ways to live, new freedom, and new paths to explore. We travel together as one in fellowship, and we pave the road as we walk it for all who may follow. No matter how far we have come, or how far we know we have to go, when we live clean, the journey continues.

Living Clean: The Journey Continues, Chapter Seven

Watch for NAWS Product Updates here in *The NA Way Magazine* and online www.na.org/?!D=literature for announcements regarding publication of *Living Clean*.

「私たちの未来像」に投資しよう

NAの誕生(発展)

これまでに伝えてきたように、NAが誕生したばかりの地域には金銭的な貢献がほとんど望めない。その多くはむしろ、誕生だけで終わらせないために私たちの助けをいちばん必要としている地域なのだ。ということは、どうしても援助を提供しないわけにはいかなくなり、それにかかる費用はほかの国や地域のNAによって分担されることになる。だがそれでも、NAの文献を提供し、おりにふれてNAワールドサービスによるワークショップを開催するだけでは、このようにNAが誕生して間もない地域の要望を満たしきれないことが多いのだ。そこで私たちは、近隣ですでに定着しつつあるNAのメンバーたちを動員し、誕生したばかりのNAが成長しようとする際にできるだけ支援の手が届きやすいようにしている。

2012年WSC(ワールドサービスカンファレンス)では、NAワールドサービスの仲介で動員されたNAのメンバー2名から報告を聞くことができた。ひとり、東アフリカの所々に誕生して成長を遂げつつあるNAに関する情報を提供してくれた。もうひとり、シベリアとロシアでのNA誕生を支援するウエスタン ロシア リージョンの取り組みについて報告してくれた。どちらも、「NAのサービスにたくす未来」で「世界に広がるNAのサービス機関が協力をおしまず心をひとつにして取り組み、一丸となってNAの回復のメッセージを運んでいる世界中のNAグループを支援していくこと」とされている理念の真意を、まざまざと示す例になっている。

東アフリカ

今回の報告により、タンザニアでは、NAのメンバーが政府の代表者たちに『ベーシックテキスト』を見せてNAのことを伝え、あつというまにザンジバル(アフリカ東岸沖の島)で12のステップによるミーティングが開かれるようになったことがわかった。そしてここ何年かの間には、リカバリー・ハウスがいくつも誕生した。これは、北アメリカなど世界各地で治療プログラムの代用になっているものだ。どのリカバリー・ハウスでも毎日、NAのミーティングが開かれており、ハウスの数は男性用が10、女性用が1で、11となっている。ザンジバルで話されているのはスワヒリ語で、完全なムスリム(イスラム教)社会である。このリカバリー・ハウスにいるアディクトたちは、外部の援助なしでNAの『今日だけ』と12のステップをスワヒリ語に訳したうえで、NAのポスターも何枚かつくってミーティングを行うモスク(イスラム



教の寺院)の壁に貼っている。

タンザニア、ケニアのほか、東アフリカの各地では、2012年の2月から3月にかけてスワヒリ語によるワークショップが開かれた。こうして7つの都市と2つの国で21日間にわたって8つのワークショップが開かれたことにより、IP(インフォメーションパンフレット)の#1、#7、#16、#22が翻訳され、どれもみなタンザニアとケニアのNAで受け入れられた。両国に存在する方言の違いを考えると、まさに快挙である。

アフリカでの広報活動が成果をあげていることで、NAにつながればうまくいくと考えている政府関係者たちとの関係を築きやすくなった。このような協力関係がなければ、東アフリカのようない地域には回復に向かうチャンスがないだろう。

シベリアと東ロシア

モスクワにナルコティクスアノニマスが誕生したのは28年前であり、その3年後にはウクライナにもNAが誕生した。この2つの地域のNAには、共に歩んできた歴史がある。2002年にロシア全体で毎週103のミーティングが開かれるようになってウエスタン ロシア(西ロシア)リージョンが創設され、そのときにモスクワとウクライナのメンバーたちがヨーロッパ デリゲート ミーティング(EDM)に出席して支援を求めたのだ。それを受けて СанктペテルブルグでEDMが開かれたことが、ロシアで伸び悩んでいたNAの成長を後押しすることになった。NAワールドサービスは、このEDMに出席してロシア語による4つのワークショップで進行役を務めることにより、さまざまな国から参加したロシア語を話すメンバーたちをひとつにまとめ、東ロシアのNAの発展を支援する必要があることを意識させた。その結果、ウエスタン ロシアリージョンの成長にともないNAワールドサービスがシベリアでのNA誕生に取り組む際には、このときのメンバーたちから協力を得る

Inspired by
Primary F

Scan with your
smartphone



NA members can make or
NA World Services at [www](http://www.naworldservices.org)

ことができた。現在では、ロシア全土で毎週937のミーティングが開かれており、1年で倍になる勢いで数が増えるようになった。

2011年の11月には、NAワールドサービスによるワークショップがシベリアで開かれ、地元のメンバー100人のほか、NAワールドサービスのスタッフ2名、ワールドボートのメンバー2名が参加した。このような発展途上にある地域にはいくつもの課題ある。そのなかで最大の問題となるのは、これほど広大な地域にどのようなサービスを提供するか、どうすればNA文献がうまく行き渡るか、カザフスタン、キルギスタン、ウズベキスタンなどのグループをどうやって支援するかということだ。それぞれの都市を行き来するのにも場合によっては10日間もかかってしまうことがあり、どこへ行くのもひと苦労だ。時間帯が9つあり、大陸の端から端まで移動するのに飛行機で10時間かかる。NA誕生の取り組みでウラジオストックへ向かった際には、汽車で6日もかかった。ロシアの東にあるといっても、日本のすぐそばなのだ。ワークショップでは、AA（アルコールクス アノニマス）とNAとはどう違うのか、エリアサービス委員会をどうやって結成するか、どのようにして経済的な自立をはかるかなど、本質的な問題がとりあげられた。そして、モスクワでは今年の8月にNAのヨーロッパ コンベンションならびにカンファレンス（ECCNA）が開催されることになっている。これによって、ロシア全土のNAが新たな熱意と興奮に沸きたつにちがいない。

文件翻訳

NA文献の翻訳作業は、私たちの未来像に直接訴えかける活動になっている。つまり、いつかの日か、「世界中のアディクトがみな、自分の話す言葉でわかりやすく書かれたNAのメッセージを目にする機会に恵まれ、それが新しい生き方に踏みだすきっかけになる」ということだ。2012年のワールドサービスカンファレンス（WSC）では、私たちの文献翻訳の取り組みに関する最新情報を提供した。これは、世界各地のNA文献翻訳委員会（LTC）とNAワールドサービスの翻訳チームとの間で行われている共同作業のことである。

ここ数年の世界的な経済不況によって何かと経費がかさんでいるように、翻訳の取り組みに関する費用も大幅に増大

してしまった。実際の翻訳作業の大半は、それぞれの国や地域の文献翻訳委員会によって行われているが、翻訳の質を吟味して校正を加えるなど、翻訳に付随する作業の一部はこちらで契約したプロフェッショナルたちによって行われており、その料金が決してバカにならない額なのだ。このような経費を極力抑えるために手を尽くすのは当然だが、しかし、回復しようとしているアディクトたちの手に一冊でも多く翻訳文献が渡るようにすることの尊さも、私たちは無視できない。これほど大事なサービスが経費削減によって打撃を受けないためにも、それによってほかのサービスがおろそかにされないためにも、予算の面でどうバランスをとるべきか頭を悩ませている。

Public Relations

「NAのサービスにたくす未来」では上記以外にも、NAが実行可能な回復のプログラムとして十分に考慮されるという目標を掲げている。私たちの広報活動は、この目標を実現するうえで最良の手段となっているもののひとつだ。誕生して間もないアフリカのNAによる報告で実証されたように、アディクトの人生にかかわる決定を下す人々から一目をおかれることで、当のアディクトたちがNAの回復

会計年度別 NAワールドサービス 翻訳文献総数 1993年～2011年

年度	総数	前年比（増減率）
1992-93	125	
1993-94	150	20%
1994-95	181	21%
1995-96	207	14%
1996-97	220	6%
1997-98	246	12%
1998-99	264	7%
1999-00	289	9%
2000-01	316	9%
2001-02	323	2%
2002-03	331	2%
2003-04	367	11%
2004-05	425	16%
2005-06	504	19%
2006-07	527	5%
2007-08	573	9%
2008-09	610	6%
2009-10	670	10%
2010-11	747	11%

のメッセージを耳にするチャンスをつかめるようになるのだ。2012年WSC（ワールドサービスカンファレンス）では、2010年から2012年までの2年間で私たちが行ったり支援したりできた広報活動の一部を報告した。

この2年間でひとときわ目を引く取り組みのひとつは、2011年のワールドコンベンションで行われたユニティデイの電話による呼びかけであった。ノーザン カリフォルニア リージョンとの共同で非常に効果的な広報活動が行われたおかげで、カリフォルニアにある33の矯正施設がすべてユニティデイのミーティングに電話で参加することができ、それによって、サンディエゴでの第34回NAワールドコンベンションの日曜朝にメインスピーカースミューティングでわかちあわれた回復のメッ

one-time or recurring contributions directly to
www.na.org/?ID=donation-external-index.

2012年 ワールドサービス カンファレンス投票結果

今回のカンファレンスでは、コーファシリテーター 2 名、ワールドボードのメンバー 11 名、ヒューマンリゾースパネルのメンバー 2 名を選出した。

WSC コーファシリテーター

ディッキー・D	ルイジアナ・リージョン
マルク・G	ウイスコンシン・リージョン

ワールドボード

タナ・A	グレーター ニューヨークリージョン
ポール・C	カナダ アトランティックリージョン
アイリーン・C	アイルランドリージョン
ポール・F	エジプトリージョン
ボブ・G	フロリダリージョン
アム H-G	ブリティッシュコロンビアリージョン
マーク・H	ウイスコンシンリージョン
フラニー・J	ワシントン/N、アイダホリージョン
タリ・M	ハワイリージョン
トニア・N	ギリシャリージョン
メアリーエレン・P	セントラルカリフォルニアリージョン

ヒューマンリゾースパネル

リブ・E	アオテアロア/ ニューゼalandリージョン
デイヴィッド・J	UK (英国)リージョン

2012年のWSC（ワールドサービスカンファレンス）による決定事項は、文書に要約されてNAのウェブサイト www.na.org/conference で入手可能になっている。このページは定期的に更新されるため、カンファレンスに関する活動に興味のあるメンバーはぜひ、こまめにチェックするようにしていただきたい。

ページを耳にすることになったのだ。私たちは、このような前代未聞の快挙に立ち会ったほか、国際アディクション医学会（ISAM）やアメリカアディクション医学会（ASAM）の会議など、いくつかのイベントにも出席した。これによって、医療の分野でNAの価値がきちんと理解されるために、役立つ研究をして発表しようと考えている研究者とのかかわりができた。これ以外にも、非営利団体国際連盟（INFGO）の会議に出席して説明会を行った。その結果、アジアのいくつかの国々の専門家や政府関係者たちからNAの文献を求められ、タイの大統領との会見に招かれることになった。

以上のような広報の取り組みは、NAという名称の信用度を増すことに大いに役立つと同時に、アディクトが何とか回復しようとしたときに、NAのことを知っていて正しい方向を示してくれる人に出会うチャンスを増やすことになるため、まわりまわって私たちがNAのメッセージを運ぶことにもなる。だからこそ、ここ数年にわたる年度予算削減によってNAワールドサービスの広報活動が低迷することになってしまったのが、残念でならない。精いっぱい続けていこうにも、現状ではやれることがかぎられてしまう。このようなことは、みんなが「私たちの未来像に投資する」ことなくして成し遂げることはできないのだ。

2012年～2014年 2年間にわたる プロジェクト

ワールドボードでは、ワールド サービス カンファレンスが開催される2年ごとに長期的なプランを立てながら活動の枠組みをつくっていく。NA全体に影響を及ぼすことがらを（NAの内部のことでも外部のことでも）慎重に評価して、どのようなサービスやプロジェクトが必要であるかがはっきりしたら、NAワールドサービスの長期的なプランに組みこんで優先順位を決めるのだ。長期的なプランは、私たちの意志決定を導き、優先順位にあわせて資金の割りふりを決め、達成までの進行状況を評価するために用いられるものである。これは、プロジェクトごとの課題とスケジュールを定めたプロジェクトプランをそえて、2年おきのワールドサービスカンファレンスで示される。このような取り組みはどれもみな、「NAのサービスにたくす未来」に導かれて実行される。ここに掲載されているのは、2012年のワールドサービスカンファレンスで承認され、2014年までの2年間におよぶプロジェクトとされたものである。

サービスシステム

2012年ワールドサービスカンファレンスでは、サービスシステムに関する決議にNA全体の同意が得られた。この決議で説明されている原理の実行について検討を重ねることが、これからの2年間で私たちが重点的に取り組んでいくもののひとつになる。これを進めていくには、ワールドボードとリージョンの代表と世界中のNAメンバーたちとの間に協力関係と対話が必要になるだろう。今回はワークグループを設けたりはしないが、システム改革案の一部を「実際に試してみる」ために、いくつかの国や地域のNAに密接な協力をあおぐことになる。何種類にも及ぶサービスを継続することを想定して、さまざまな段階で新しいシステムに移行する方法をさぐっていく。2014年のワールドサービスカンファレンスでは、いくつかの方法をもち込んだ移行計画にそって改革の意義を説明できるようにしたいと考えている。サービスシステムに関するウェブページ www.na.org/servicecystem には、プロジェクトの参考資料がのせられており、これからも詳しい報告や最新情報のがせられることになっている。

信頼されるしもべの支援と育成

このプロジェクトでは、これまでの2年間からひきつづき、リーダーシップ養成について検討を重ねていく。信頼されるしもべたちがNAのリーダーとして持てる力を十分に発揮できるようになっていくために、少しでも役立つ手段を提供したいという気持ちにかわりはないからだ。こうしてサービスにかかわるメンバーたちを支援することは、NAのサービスシステムをうまく機能させるという面でも欠かせないことになるだろう。そこで、私たちは世界中のNAメンバーたちの交流によって集められた情報を活用し、ファシリテーション・ベシックス、あるいはリージョンのサービス委員会で力を発揮するメンバーになる方法など、この2年間でできる道具をつくって信頼されるしもべやリーダーたちを支援していく。

NA全体の検討課題

これは現在進行中のプロジェクトであり、ひきつづき「経済的な自立」と「NAのサービスにたくす未来」について検討を重ねていく。なお、今回の2年間では「代表任命」、「説明責任」、「グループの良心」も検討課題に加えたうえで、「協力」と「個人より原理が優先すること」についてカンファレンスで提供された意見の見直しを行い、NA全体で話しあわれるべき問題の方向性を決めていく。

『伝統』に関する書籍

2010年のワールドサービスカンファレンスでは、ワールドボードにプロジェクトプランの提示を求めることが決定し、同年のNAメンバーによる文献調査では、『伝統』に関する書籍が出版を優先すべであると決まった。このプロジェクトは、この2つの決定を受けて企画されたものであり、この2年間と次の2年間にわたって実行されることになる。この2年間ではまず、テクノロジーを利用してメンバーたちから提供されたアイデアをファイル化していく。それをもとに本の制作方針が決まったら、2014年のワールドサービスカンファレンスで発表されることになる。

広報活動

広報について外部からの意見を取り入れる会議に関するプロジェクトは、苦しい財政状態によってまったく実行されないまま、2008年からもちこされてきた。もちろん、NAワールドサービスの予算では、私たちの広報活動の多くが不可欠なサービスと考えられている。しかし、このプロジェクトを実行すると、医療関係者や研究者などの専門家によるフォーカス・グループの運営をはじめとして、NAを代表して発言できるメンバーの養成や、こうした専門家向けの資料の作成などが必要となってくるのだ。

NAミーティングへの案内

インフォメーションパンフレット

これは、ワールドボードによって承認されたサービスパンフレットの第一弾として出版されたものであるが、サービス関連資料というよりもむしろ回復に関する文献とする方がふさわしいだろう。このプロジェクトでは、すでに存在するサービスパンフレット類に対してNA全体による見直しと意見提供の期間を設け、必要な修正を施したものがフェロシップ承認のIP（インフォメーションパンフレット）となるように、2014年カンファレンスアジェンダレポートに修正版として発表される。

ここに紹介したプロジェクトでは、作業の量もハンパではないことがおわかりいただけるだろう。しかも同時進行で、ほかのNAワールドサービスの日常業務をこなしながら、NAの誕生に取り組み、さまざまな国や地域に出かけていき、フィードバックをまとめて報告する責任が生じてくる。はたして、私たちにこれだけの任務を成し遂げる能力があるのか。それは、これまでたびたび報告しているように、スタッフと財源が確保できるかどうかにかかっている。私たちがカンファレンス関連プロジェクトを完了させる際には、メンバーたちの協力がなくてはならないものになっているのだ。今回の2年間では、プロジェクトのワークグループを減らしているため、サービスに関心のあるメンバーたちにはぜひ、www.na.org/HRP でワールドプール インフォメーション フォーム* を提出（あるいは変更）することをお願いしたい。このほかに、ワールドサービスやプロジェクトについてもっと詳しく知りたいメンバーたちは、自分たちのリージョンの代表に連絡するとよいだろう。

* ワールドプール インフォメーションフォーム： サービス要員となるメンバーの履歴書。回復の面でもサービスの面でも経験が豊富で、世界での任務を立派にこなす手腕もあることを示すもの。5年以上のクリンタイムがあるNAメンバーなら、だれもが適任とされ、この履歴書を提出するように奨められている。

なぜ、計画を立てるのか？

『プランニング ベーシックス』は、NAのサービスシステムをあまりとこなく活用するためにつくられた本であり、「長期的な考え方をし、準備をし、目標に到達するための手引き」となるものだ。これはワールドボードによる長期的なプランニングの手順とほとんど変わるところがなく、NAのサービス機関でどんなプロジェクトとサービスが必要とされているのかをみきわめ、そこからいくつか目標を定めて優先順位を決めていき、行動計画を作成して、進行状況を追跡評価するのに役立っている。

それぞれの『伝統5』

各グループの第一の目的はただ一つ、
まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶことである。

2012年ワールドサービスカンファレンスの初日には、「私たちの第一の目的を使命とする」出席者たちが一堂に会して自己紹介を行い、同じ仲間としてひとつにまとまった。NAのサービスがスピリチュアルな原理によって動機づけられているときにはつねに『伝統5』が念頭にあるので、話しあう目的はひとつとなり、それによって私たちはひとつにまとまるのだ。自己紹介が終わると、出席者たちは『なぜ、どのように効果があるのか』の『伝統5』から一部が引用された用紙に向かい、じっくりと（文章にして）考えをめぐらせた。ワールドサービスカンファレンスに出席する自分は、誠実さ、責任、一体性、アノニミティ（無名であること）という『伝統5』のスピリチュアルな原理をどのように励みとしていくのか。

誠実さ

NAのプログラムに取り組もうとするアディクトを、グループが積極的に、意識的に支えていくとき、この「誠実さ」という原理がはっきりと示される。

誠実さという原理は、「正しい目的のために正しいことをする」のだと気づかせてくれることで、カンファレンスで自分の努めを果たすことを励みと思えるようにしてくれる。そして、誠実さという原理によって、わたしは生きていくうえでNAのスピリチュアルな原理をつねに実行することを忘れていないか、と気づかせてもらえる。カンファレンスではぜひとも、みんなの話に注意深く耳を傾け、情熱を感じ取って、心を通じあわせたい。

キャシー・B（シカゴランド リージョン）

誠実さとは、「心をつくすこと」であり、「考えていることと、やっていることと、言っていることが一致すること」でもある。ということはつまり、ぼくはこの誠実さという原理を実行することで、責任、アノニミティ（無名であること）、一体性を実行できるようになるのだ。

レオナルド・E（メキシコ リージョン）

「誠実さとは、どんなときにもつねにスピリチュアルな原理を生かそうとすることだ」と、『なぜ、どのように効果があるか』には書かれている。だから、おれは正直になって広い心もち、どんなことでもとわずにやっていく。それが「誠実に努めを果たすこと」になるんだ。

マーク・B（ネブラスカ リージョン）

今回のカンファレンスに向けて自分の生活費をどれだけ切り詰めて準備できるかで、僕の誠実さというものが測られるのだろう。経費を正直に申告することも、ワールドサービスカンファレンスに出席してリージョン代表の責任をまっとうする原動力となり、僕は自制心を失うことがないのだと思う。だから、自分がどれほど誠実であるかは、自分がどれほど回復を励みとしているかということになってくる。

ブライアン・S（アオテアロア・ニュージーランド・リージョン）

責任

各グループはNAのメッセージを運ぶ道具として、精いっぱいのことをする責任がある・・・グループが第一の目的から焦点を外すことのないよう見守る責任は、メンバー全員が負っている。

私は、自分がクリーンでいることに対してだけでなく、まだ苦しんでいるアディクトにNAのメッセージを運ぶという「私たちの第一の目的」に対しても責任があるのに、そのことを忘れてしまうときがある。そもそも、私たちがクリーンでいられるのは、力を合わせて助け合っているからだ。みんなで「私たちの第一の目的」に心を注げば、多くのアディクトが使うのをやめてNAプログラムによる回復の道を歩むことができるようになるだろう。

トリックス・G（フィリピン リージョン）

私は、自分ひとりではなく、多くの仲間を代表しているのだ。ここでは、何をするにもそういう考えで行なわなければならない。私たちがここで手を尽くせば、NAのメッセージはもっと届きやすくなっていくのだ。私は、スピリチュアルな原理とハイヤーパワーの導きによって新しい人生を充実して生きられるようになったのだから、もういいかげんなことをするわけにはいかない。責任をもって生きる必要があるし、そういう生き方をしたいと思っている。それが、NAプログラムによる回復の道を歩むということだ。

クリスティアーン・D（サウザン ブラジル リージョン）

自分の考えはどうであれ、わたしはNAのメッセージを運び、自分のリージョンのためにつくすつもりだ。責任をもって自分のしなければならぬことをやり、求められればどんなこともベストをつくして行っていく。あくまで自分の努めを果たそうとし、そうすることで不安や恐怖を覚えずとも逃げたりはしない。

アニエスカ J-S（ポーランド リージョン）

リージョンの代表として私に与えられた役割は、自分のリージョンの声をワールドサービスカンファレンスで正確に伝えることである。だがそれで終わらせず、カンファレンスに出席している間に見聞きしたことや、行われたこと、理解できたことなどをまとめて自分のリージョンに持ち帰り、エリアやグループに伝えるようにすることにも、責任をもたなければならぬ。このような情報によって、メンバーたちが自分たちの国のNAにも世界中のNAにも役立つ考え方をしていけるようになれば、サービスへの取り組み方は大きく変わることになるだろう。

ブライアン・M（ユタ リージョン）

一体性

一体性は、メッセージを運ぶときの最大の力になる。NAでは目的が一本化されているため、私たちはメッセージを運ぶことだけに集中すればいい。

目的がひとつにしばられていることで、私は余計なことに気をとられないでいられる。私たちはみんな、メッセージを運ぶという共通の目標に向かって活動しているのだ。私は、先入観にとらわれなくて仲間たちの考えや気持ちや意見をしっかり受けとめるように努力していく。そうやって仲間たちと活動しながら、話し合いや決定の際にどうすれば一体性を深められるのかと自分に問いかけていく。

ベルタ・H (モンタナ リージョン)

私たちをひとつにまとめるものは、私たちを破壊するものよりも強力でなければならない。今こうして自分の人生を満ちたサービスの精神は、私たちをひとつにまとめる力によってもたらされたものであり、自分が回復するかしないかはこの力の強さにかかっている。

ローラ・R (コスタリカ リージョン)

NAはまさに世界に広がる仲間の集まりだ。アディクションという病気には国境などない。でも、だからこそ、NAの回復のメッセージも国境を超えて運ばれていく。いろんな国の人間がこんなにたくさんいるのに、みんながまったく同じ問題を抱えていて、それを解決する方法もひとつだなんて、すごいことじゃないか。だが、それよりすごいのは、どうしたらNAのメッセージを運べるのかということまでみんなの課題とし、そのために一緒に何かをしようとしていることだろう。自分には、このようにひとつになって歩んでいく仲間たちがいるのだ。

アンドレイ・G (ウエスタン ロシア リージョン)

一体性のことを心にとどめておけば、私はみんなとの違いなど気にせず、NAのためになることを考えていくことができるだろう。だから、世界中のNAにとって最善のことが成し遂げられるように願って、私は一体性というスピリチュアルな原理によって個人よりも原理を優先していく。

リーネ・B (サウス アフリカ リージョン)

一体性というのは、自分のリージョンのことだけを考えるのではなく、世界中のNAのことを考えて精いっぱいつくすことだ。

マハムード・Ch (イラン リージョン)

アノニミティ

私たちはみな、無名にとどまっているため、一人ひとりの違いなど、第一の目的に比べたらちっぽけなものになる。グループとして一体となって取り組むとき、まずやるべきことは、メッセージを運ぶことであって、それ以外のことはどれも脇に置く。

アノニミティ (無名にとどまること) とは、お互いを同類とみることだ。アノニミティ (無名にとどまること) によって、ひとりひとりの違いなどどうでもよくなる。アノニミティ (無名にとどまること) という原理は、NAという仲間の集まりをしっかりとめていくよりどころなのだ。俺たちは、共通の善のために、ナショナリズム* のようなものがほんのわずかでも頭をもたげないようにしなければならない。NAではみんな平等であり、それぞれが同じ物語の主人公なのだ。

* ナショナリズム: 自分の国や特定の民族の利益や優位性を主張したり確保したりしようとする考え。

アラン・L (ハワイ リージョン)

アノニミティ (無名にとどまること) とは、自分のことを忘れていながら、自分のやっていることがNAのためになると理解していることだ。私は謙虚で、話しかけやすく、求めに応じられるメンバーでなければならないし、そうありたいと思っている。私はただのアディクトであると同時に、だれにも負けないぐらい立派に努めを果たす責任があるのだ。

イーゴ・C (スペイン リージョン / ワールドボードメンバー)

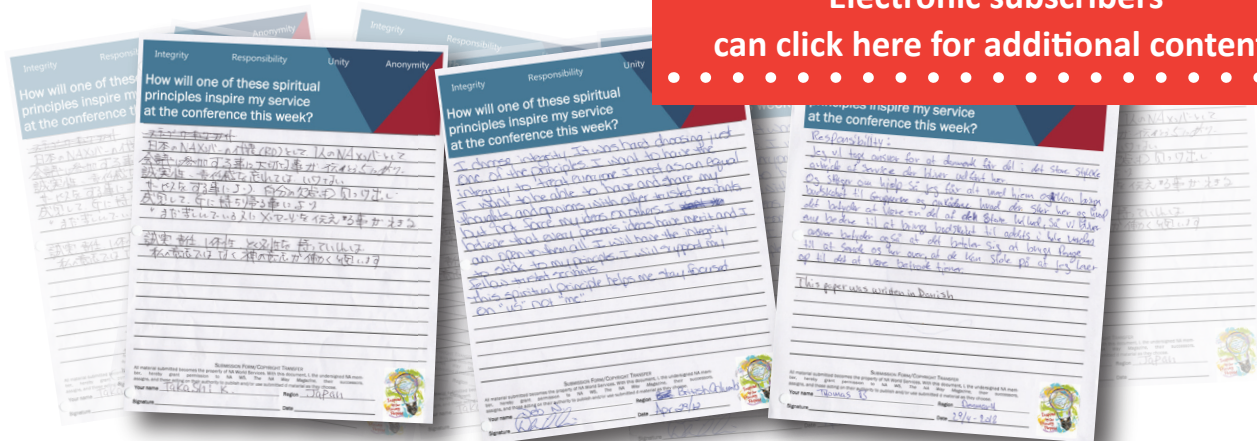
わたしはアノニミティ (無名にとどまること) という原理によって、耳だけでなく心でも真剣に聴くということを忘れていられないだろう。こうしてプログラムによって人の気持ちに寄り添えるようになってもらったことで、わたしはどこにいても浮き上がることがない。人の気持ちに寄り添ってあげれば、自分にもいろんな考え方ができるようになってくるからだ。

ドナ・リー・P (セントラル アトランティック リージョン)

自分がNAにたどりついたときにはすでに一生懸命に活動している仲間がいたので、ミーティングが開かれてアディクトがつながれるようになっていた。だから自分も、NAで最も重要なことである「まだ苦しんでいるアディクトのこと」に全力を注ぎながら、責任をもって努めを果たす必要がある。そうやって自分なりの感謝を示すことで、自分が今やっていることは未来の仲間たちのためになるとわかるのだ。

ジャーミー・R (ガテマラ リージョン)

Electronic subscribers
can click here for additional content.



Picture this

NA communities are invited to send photographs of their meeting places and events. Sorry, we cannot use photos that identify NA members. Please tell us the group/event name, location, how long it has been in existence, format or special traditions, and what makes it a unique part of your NA community.

L'anniversaire du groupe



The Renaissance Group of Bai Comeau, Quebec, Canada, holds its meetings at 170 Lasalle Boulevard in the basement of the Domrémy building. We are a small group. We meet every Tuesday to discuss various issues regarding recovery in the Narcotics Anonymous program. We are affiliated with the Saguenay/Lac St.-Jean Area Service Committee and the LeNordet Region and, of course, we welcome newcomers!

On 22 May 2012, our group earned a 30-year medallion, as we celebrated the 30th anniversary of the group.

Daniel P and Andre G, Quebec, Canada



Web and IT updates

There are many technological changes in the works at NAWS. As we went to print with this issue of The NA Way Magazine, we were in the final stages of beta testing the revised website at www.na.org. By the time you read this, the new design should be up and running.

We are also completing revisions to our meeting search tool, which allows use of online mapping software to more accurately locate meetings. In another website effort, we are considering ways to make our online literature sales area (shopping cart) more user-friendly.

At the same time, we are having in-depth discussions about mobile applications and electronic publications to determine what to develop, when to develop, etc. As was discussed at WSC 2012, we are continuing our discussion about rolling out a private Facebook page, which will "push" information to those who visit the page, but will preclude comments or posts except by the page administrators.

Fitting all of this information into just two paragraphs may mask the significance of these IT and web efforts, but we are well aware of the depth and breadth of these changes! We are hard at work to continue to improve IT services for NAWS and the NA Fellowship.

Our members' input is always important, so we encourage those with ideas and feedback to contact us at worldboard@na.org or webmaster@na.org.

For up-to-date news about what is happening in our technology corner, we invite you to visit NAWS' IT blog at naws.org/IT. The NAWS IT staff maintains this blog, which contains information about IT projects, as well as other items of interest to the fellowship's webmasters and those who closely follow NA technology.

The image shows a screenshot of the NA website homepage. At the top left is the NA logo, a circular emblem with the letters 'NA' inside. To its right is the text 'Narcotics Anonymous' in a large, blue, serif font, with 'WORLD SERVICES' in a smaller, blue, sans-serif font below it. To the right of the logo and text is a search bar with a magnifying glass icon. Below the logo and text is a green navigation bar with several icons and labels: a person icon for 'FOR THE PUBLIC', a book icon for 'PERIODICALS', a calendar icon for 'EVENTS', a speech bubble icon for 'FOR OUR MEMBERS', a shopping cart icon for 'SHOPPING CART', and a location pin icon for 'CONTACT'. Below the navigation bar is a large blue banner with the text 'WELCOME to www.NA.org' in a large, white, sans-serif font. Below this text is a smaller white text block: 'All of the efforts of Narcotics Anonymous are inspired by the primary purpose of our groups. Upon this common ground we stand committed.' Below this is a large, semi-transparent map of the Los Angeles area, showing various meeting locations marked with NA logos. To the right of the map is a circular arrangement of chairs with the text 'FIND A MEETING' below it. At the bottom of the page, there is a footer with the text 'E-Subscribe now at ----- www.naway.org 17'.



カレンダー

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at www.na.org/events. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or The NA Way; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Australia

Victoria 10-12 Aug; Victoria Area Convention; Gasworks, Albert Park; scnasec@gmail.com.au

Canada

Alberta 3-6 Aug; Alsask Northern Lights Area Camp Out 7; Camp Yogi, Anzac (Ft McMurray); rsvns: 780.750.7847; Registration: 780.750.7847
British Columbia 21-23 Sep; British Columbia Regional Convention 29; Beban Park, Nanaimo; www.bcrna.ca

Nova Scotia 16-22 Jul; Annapolis Valley Area Pig Roast 23; Blomidon Provincial Park, Canning; 902.765.2235

Ontario 17-19 Aug; Georgian Heartland Area Campvention 4; Bass Lake Provincial Park, Orillia; www.ghlana.org

Prince Edward Island 10-12 Aug; Prince Edward Island Area Convention 4; University of Prince Edward Island, Charlottetown;

www.carna.ca

Colombia

Cartagena 18-20 Aug; Colombia Regional Convention 21; Hotel Dorado, Cartagena; www.nacolombia.org/convencion.html

Denmark

Skanderborg 3-5 Aug; Area Midtjylland Convention and Camp 5; Audonicon, Skanderborg; www.nakonvent.dk

El Salvador

San Salvador 10-12 Aug; El Salvador Regional Convention 7; Hotel Alameda San Salvador, San Salvador; 503.7818.4278

Honduras

San Pedro Sula 14-16 Sep; Convención Regional de Honduras 2; Hotel Victoria, San Pedro Sula; tabhan@hotmail.com

India

West Bengal 21-23 Sep; Indian Regional Convention 6; Darjeeling Tourist Lodge, Darjeeling; www.naindia.in/pdf/ircna6.pdf

Malta

Saint Julian's 21-23 Sep; Malta National Convention 6; Golden Tulip Vivaldi Hotel, Saint Julian's; www.namalta.org

Norway

Bragdoya Island 16-22 Jul; Norway South Campout 15; Bragdoya Island, Kristiansand; www.naossk.org

Puerto Rico

Isla Verde 27-29 Jul; Del Coquí Regional Convention 23; Verdanza Hotel, Isla Verde; www.prna.org

Russia

Moscow 17-19 Aug; European Convention and Conference 28; Druzhba (Friendship) Multipurpose Arena, Moscow; www.eccna28.org

Sweden

Stockholm 24-26 Aug; Sweden Regional Convention 25; Fryshuset, Stockholm; www.nasverige25.org

United Kingdom

Liverpool 5-7 Oct; First Merseyside Area Convention; Liner Hotel, Liverpool; www.mana-ukna.co.uk

United States

Arizona 21-23 Sep; Productive Members of Society Group Spiritual Retreat 14; Camp Tontozona, Payson; www.arizona-na.org

California 20-22 Jul; Greater Los Angeles Area Convention 6; LAX Hilton, Los Angeles; www.glaana.org

2) 17-19 Aug; Greater East LA Area Convention 2; Hilton Pasadena, Pasadena; www.greatereastlosna.com

Colorado 10-12 Aug; Serenity Unlimited Area-Standing on Higher Ground Retreat; Telluride; J_m0228@yahoo.com;

2) 12-14 Oct; Western Service Learning Days 26; Holiday Inn Denver International Airport, Denver; www.wslid.org/wslid26.html

Florida 3-5 Aug; Big Bend Area Convention 15; North Monroe Street Conference Center, Tallahassee; www.bigbendna.org

2) 10-12 Aug; North Dade Area Convention; DoubleTree Miami; www.northdadearea.org

3) 31 Aug-3 Sep; South Florida Regional Convention 18; Hyatt Regency Bonaventure Conference Center & Spa; www.sfrca.org

4) 28-30 Sep; River Coast Area Campout 24; Weeki Wachee Christian Campground, Weeki Wachee; www.rivercoastareana.org

Illinois 23-26 Aug; South City Area Convention 7; Hyatt Regency McCormick Place, Chicago; <http://www.chicagona.org>

Indiana 24-26 Aug; Muncie Groups End of Summer Celebration; Prairie Creek Reservoir Campground, Muncie; www.naindiana.org

Kentucky 5-7 Oct; Bluegrass-Appalachian Regional Convention 5; Cumberland Falls State Resort Park, Corbin; www.nakentucky.com

Louisiana 30 Aug-2 Sep; New Orleans Area Convention 12; Hilton New Orleans Riverside, New Orleans; www.noana.org

Massachusetts 3-5 Aug; Western Mass Area Convention 12; Sheraton Hotel, Springfield; www.newenglandna.org

2) 17-19 Aug; Cape Cod Area Fun in the Sun; YMCA Camp Lyndon, Sandwich; www.newenglandna.org

3) 14-16 Sep; Dinosaur Day 3-Three Days of Dinosaurs; First Evangelical Lutheran Church, Brockton; www.nerna.org

4) 28-30 Sep; Berkshire County Area Convention 5; Jiminy Peak Mountain Resort, Hancock; www.berkshirena.org

Minnesota 14-16 Sep; First Twin Cities Area Inner City Unity Convention; Crowne Plaza, Saint Paul; www.naminnesota.org

Missouri 14-16 Sep; Show-Me Region Unity Campvention; Lake of the Ozarks State Park—Camp Rising Sun, Lake of the Ozarks; 636.359.4893

Nebraska 27-29 Jul; Elkhorn Valley Steppin' at the Lake Men's Retreat 2; Lake Muskintine, Norfolk; www.nebraskana.org

2) 5-7 Oct; Nebraska Regional Convention 29; Quality Hotel & Convention Center, Hastings; www.nebraskana.org

Nevada 20-22 Jul; California Arizona Nevada Area Convention 20; Riverside Resort, Laughlin; www.canana.org

New Hampshire 3-5 Aug; Granite State Area Convention 7; Courtyard Marriott Nashua, Nashua; www.gsana.org

New York 17-19 Aug; First Manhattan Area Convention; Hudson Valley Resort/Spa, Kerhonkson; www.newyorkna.org

2) 24-26 Aug; ABCD Regional Convention 6; Hotel Albany-Hilton (previously Crowne Plaza), Albany; www.abcdrna.org

3) 31Aug-3 Sep; Buffalo Area Recovery in the Woods 24; Pioneer Camp & Retreat Center, Angola; www.nawny.org
 4) 7-9 Sep; Suffolk Area Convention Lighting the Way 11; Hyatt Regency Long Island NY, Hauppauge; www.sasna.org
 North Carolina 3-5 Aug; New Hope Area Convention 19; Sheraton Imperial Hotel & Convention Center, Durham; www.nhacna.org
 2) 17-19 Aug; Twin City Area Convention 13; Embassy Suites, Winston-Salem; www.tcana.org
 Ohio 14-16 Sep; Kentucky Ohio Recovery Area Friendly Valley; Camp Oyo, West Portsmouth; 740.259.5670
 Oklahoma 12-14 Oct; Shawnee Original Group Fall Convention; America's Best Value Inn, Shawnee; 405.488.4178
 Pennsylvania 20-22 Jul; Kinzua Event Committee Camping; Chapman Dam State Park, Claredon; www.cwpasca.org
 2) 10-12 Aug; Greater Philadelphia Regional Convention 27; Dolce Hotel and Resort, King of Prussia; www.naworks.org
 3) 28-30 Sep; Little Apple Area Convention 31; Rodeway Inn & Conference Center, Allentown; 610.393.4169
 4) 12-14 Oct; Clean Acres Area Nurture Your Core Women's Retreat; Ladore Retreat, Camp & Conference Center, Waymart; www.cleanacresna.org
 5) 12-14 Oct; Reading Area Convention 2; Crowne Plaza, Reading; 484.529.1817
 South Carolina 24-26 Aug; Central Carolina Area Convention 17; Courtyard Marriott USC, Columbia; www.midcarolinana.org/events.htm
 2) 28-30 Sep; Southern Foothills Area Campvention; Kings Mountain State Park, Blacksburg; www.sfana.com
 South Dakota 5-12 Aug; Otherside Group Sheridan Lake Campout 18; Sheridan Lake North Shore, Hill City; 605.787.2872

2) 14-16 Sep; South Dakota Regional Convention; Best Western Plus Ramkota Hotel, Sioux Falls; www.sdna.com
 Tennessee 17-19 Aug; Middle Tennessee Area Unity Convention 11; Millennium Maxwell House Hotel, Nashville; www.nanashville.org
 2) 24-26 Aug; Turning Point Group Chill Out on Chilhowee; Chilhowee Campground, Cherokee National Forest; marcingram71@gmail.net
 Texas 12-14 Oct; Esperanza Area Frolic in the Woods; Garner State Park/Old Pecan Grove, Concan; www.eanaonline.org
 Vermont 16-19 Aug; Green Mountain Area Campout 28; Wallingford Boy's Camp, Wallingford; www.gmana.org/campout.html
 Virginia 20-22 Jul; Blue Ridge Area Campout 31; Natural Chimneys Campground, Mount Solon; www.branacampout.org
 2) 3-5 Aug; Almost Heaven Area Convention 26; Northern Virginia 4H Educational Center, Front Royal; na2day.tripod.com
 3) 31Aug-3 Sep; Marion Survivors Group Campout 16; Hungry Mother Lutheran Retreat Center, Marion; 276.646.8462
 Washington 14-16 Sep; North Puget Sound Area Spiritual Connection 29; Cornet Bay Learning Center, Oak Harbor; www.npsana.org/events

Coming soon

2011 Membership Survey

Item No. ZPR001001 Price US \$0.26

Information about NA

Item No. ZPR001002 Price US \$0.26

NA: A Resource in Your Community, 2012 Version

Item No. 1604 Price US \$0.35

NA books in ePub version

6th Edition Basic Text, *It Works*, and *Sponsorship*

Just for Today

Numbered Edition

A special hand-numbered, limited quantity collector's edition. Commemorating the two millionth copy

Living Clean: The Journey Continues

In NA's newest Fellowship-approved book, members from around the world offer their recovery journey experiences. In seven chapters, our new book covers

"Living Clean," "The Ties That Bind,"
 "A Spiritual Path," "Our Physical Selves,"
 "Relationships," "A New Way of Life," and
 "The Journey Continues."

Living Clean hardcover and softcover available fall 2012.

Living Clean Commemorative Edition
 available late fall/winter 2012.

*No matter how far we have come, or how far we know we have to go,
 when we live clean, the journey continues.*

Living Clean: The Journey Continues

Deeply discounted
 WCNA Merchandise
spirit & unity
 is available online!
www.hicorpinc.com/na
 Clothing, caps, mugs, travel mugs, specialty items
 like screen/eyeglass cleaning cloths & other
 WCNA merchandise, too.
Treat yourself or buy a gift for a friend or sponsee/sponsor.
 All sales are final and quantities
 and sizes are limited to stock on-hand.



NAWS PRODUCT UPDATE



Brazilian

O serviço de hospitais e instituições e o membro de NA

Item No. BR-3120 Price US \$0.22

Para os pais ou responsáveis dos adictos de NA

Item No. BR-3127 Price US \$0.28



Hungarian

IP No. 5

Egy másik szemszög

Item No. HU-3105 Price US \$0.22

IP No. 23

Tisztának maradni odakint

Item No. HU-3123 Price US \$0.22

Japanese

The NA Step Working Guides
ナルコティクス アノニマス
ステップワーキングガイド

Item No. JP-1400 Price US \$7.70



Croatian

An Introductory Guide to NA
Vodič za upoznavanje
s Anonimnim narkomanima

Item No. CR-1200 Price US \$1.80



Finnish

An Introductory Guide to NA, Revised
Alustava opas Nimettömiin
Narkomaaneihin, uudistettu

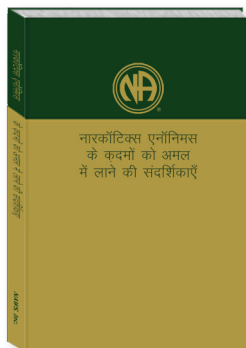
Item No. FI-1200 Price US \$1.80



Hindi

The NA Step Working Guides
ukjdkWfVDI ,ukWfuel ds d+neksa dks vey
esa ykus dh lanf'kZdk,j

Item No. HI-1400 Price US \$7.70



Nepali

cfTd-:jLs[[lt

Item No. NE-3119 Price US \$0.22

Norwegian

*Social Media and
Our Guiding Principles*
Sosiale medier og våre
veiledende prinsipper

Item No. NR-2207 Price US \$0.28



Spanish

*Social Media and
Our Guiding Principles*
Los medios sociales
y los principios que nos guían

Item No. SP-2207 Price US \$0.28



Swedish

Behind the Walls
Bakom murarna

Item No. SW-1601 Price US \$0.85

